



2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年1月27日

上場会社名 株式会社 ドリコム 上場取引所 東
 コード番号 3793 URL <https://drecom.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 内藤 裕紀
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 後藤 英紀 TEL 050-3101-9977
 四半期報告書提出予定日 2022年2月9日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績（2021年4月1日～2021年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	8,078	△11.8	1,419	△15.7	1,380	△16.5	853	△34.3
2021年3月期第3四半期	9,156	31.3	1,683	217.3	1,653	221.5	1,298	232.5

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 854百万円 (△34.3%) 2021年3月期第3四半期 1,300百万円 (231.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	29.87	29.83
2021年3月期第3四半期	45.59	45.49

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年3月期第3四半期	9,770	4,619	46.8	160.67
2021年3月期	9,610	3,855	39.5	132.91

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 4,568百万円 2021年3月期 3,794百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年3月期	—	0.00	—		
2022年3月期（予想）				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2022年3月期の連結業績予想（2021年4月1日～2022年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,900	△7.9	1,700	△17.2	1,650	△18.3	1,000	△38.4	35.17

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社（社名）ー、除外 ー社（社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期3Q	29,072,696株	2021年3月期	28,976,700株
② 期末自己株式数	2022年3月期3Q	637,366株	2021年3月期	428,366株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期3Q	28,569,388株	2021年3月期3Q	28,491,583株

(注) 株式会社日本カストディ銀行(以下、「ESOP信託口」という。)が所有する当社株式613,300株(議決権の数6,133個)につきましては、上記期末自己株式数に含まれております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(決算補足説明資料の入手方法について)

当社は、2022年1月27日に機関投資家・アナリスト向け決算説明会を開催する予定です。この説明会で配布する決算説明会資料については開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	7
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループが属するインターネットサービス業界を取り巻く環境は急速な変化を続けております。令和2年通信利用動向調査によると、令和2年(2020)8月末時点で、スマートフォンを保有する世帯の割合は引き続き増加し86.8%に達し、パソコン(70.1%)、固定電話(68.1%)の保有世帯割合を上回り、スマートフォンは現在の日常生活において最も主要な情報通信機器と位置付けられる状況になっております。また、令和2年(2020)8月末時点で、スマートフォンを使用してインターネットを利用する人の割合は68.3%となり、スマートフォンはインターネット利用における主要なデバイスと位置付けられています。このように、スマートフォンの急速な普及とインターネットデバイスとしての重要性が増していることを受け、インターネットサービス業界では、スマートフォン向けの新規サービスが次々と創出され、市場拡大と競争の激化が続いております。

こうした環境の下、当社グループはスマートフォン向けサービスの提供を主な事業と位置付け、既存サービスの拡充および新規サービスの開発に注力しております。主力事業のゲーム事業では、長年のIPゲームの開発・運用で培ったノウハウを生かし、運用中のIPゲームの収益拡大と新規IPゲームの開発を通じた事業拡大に取り組んでおり、メディア事業では、次世代の主力事業創出を目的とした新規サービスの開発・運用にも取り組んでおります。

当第3四半期連結累計期間におきましては、運用中タイトルの多くが引き続き安定的に利益を計上しており、事業の安定性も増しております。

売上高については、複数タイトルのクローズや広告事業からの撤退等に伴い前年同期比で減少しました。一方で、各種タイトルは周年イベント等の実施により好調さを維持しております。また、メディア事業においては新規サービスの売上が順調に拡大しております。費用については、委員会方式のプロジェクトにおいて一時的な費用が発生しましたが、一層のコスト効率化を意識した運用体制を敷いたこと、および開発の進捗により資産計上額が増加したこと等から前年同期比で減少いたしました。

以上の結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間の売上高は8,078,020千円(前年同期比11.8%減)、営業利益は1,419,983千円(前年同期比15.7%減)、経常利益は1,380,831千円(前年同期比16.5%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は853,257千円(前年同期比34.3%減)となりました。当第3四半期連結累計期間のセグメントごとの状況は次のとおりであります。

ゲーム事業

当事業セグメントはゲームの開発・運営が主要事業となっており、他社IPゲーム及びゲームプラットフォーム並びにオリジナルIPゲームの開発・運営を行っております。

売上高については、複数タイトルのクローズに伴う運用タイトル数の減少等により前年同期比で減収しております。一方で、当社主力タイトルの1本である他社IPゲームアプリで9月に実施したイベントが好調に推移し、5月の周年イベントに迫る水準での収益貢献となりました。また、運営中の多くのタイトルにおいても堅調な推移を維持しております。

費用については、委員会方式のプロジェクトにおいて一時的な費用が発生したものの、引き続き運用費用の効率化に取り組んだほか、新規タイトルの開発が進展し資産計上額が増加したこと等から前年同期比で減少いたしました。

以上の結果、セグメント売上高は7,968,562千円(前年同期比12.3%減)、セグメント利益は1,632,750千円(前年同期比16.6%減)となりました。

メディア事業

メディア事業では、次世代の主力事業創出を目的とした取り組みの一環である『DRIP(Drecom Invention Project)』のもと、当社の有するインターネットサービスの知見を活かした新規サービスを試験的に立ち上げ、事業化に向けた試行を重ねました。主力の位置情報と3DリアルマップによるARスマートフォンアプリ構築プラットフォーム『AROW』では、『AROW』を活用した新規タイトルの開発が進んだ他、Twitterを活用したファンコミュニティ促進サービス『Rooot』、当社が過去大規模サービスの開発・運用から培ったノウハウを活かした『負荷テストサービス』などのゲーム事業以外の領域での新規サービスの拡大に注力いたしました。

売上高については、『Rooot』が順調にサービス拡大しており、前年同期比で増加いたしました。費用につきましては、多くのサービスが事業開発段階にあり費用先行が続いております。以上の結果、セグメント売上高は109,457千円(前年同期比53.3%増)、セグメント損失は212,766千円(前年同期はセグメント損失274,718千円)となりました。

今後につきましては、引き続き、主力のゲーム事業の一層の採算性向上に取り組むほか、当第4四半期以降に予定している複数の新規タイトルのヒットに向けサービスの作りこみやマーケティングに注力してまいります。2021

年8月には出版事業部を新設するなど、ゲーム以外のエンターテインメント領域での事業開発に注力しており、当社グループの中長期の目標であるIPを軸とした総合エンターテインメント企業への成長を目指してまいります。

なお、今期におきましても、新型コロナウイルス感染症の流行を引き続き経営上の大きなリスクと認識し、安定的な利益の創出とキャッシュフローの確保を優先事項と位置づけ、将来への投資を積極的に行いつつ、利益とキャッシュフローを圧迫しないという前提を据えた保守的な姿勢も意識したバランスの取れた経営に取り組んでまいります。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結累計期間末における流動資産は7,041,474千円となり、前連結会計年度末に比べ627,671千円減少いたしました。これは主に現金及び預金が684,928千円減少したことによるものであります。固定資産は2,728,668千円となり、前連結会計年度末に比べ787,391千円増加いたしました。これは主にソフトウェアが298,678千円減少したものの、ソフトウェア仮勘定が1,203,533千円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は9,770,143千円となりました。

(負債)

当第3四半期連結累計期間末における流動負債は2,592,524千円となり、前連結会計年度末に比べ589,360千円減少いたしました。これは主に未払法人税等が351,800千円、資産除去債務が150,414千円それぞれ減少したことによるものであります。固定負債は2,557,916千円となり、前連結会計年度末に比べ15,305千円減少いたしました。これは主に資産除去債務が65,940千円増加したものの、長期借入金120,000千円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は5,150,440千円となりました。

(純資産)

当第3四半期連結累計期間末における純資産合計は4,619,702千円となり、前連結会計年度末に比べ764,386千円増加いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益853,257千円を計上したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は46.8%（前連結会計年度末は39.5%）となりました。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,288,132	4,603,204
売掛金	1,841,939	1,912,953
仕掛品	7,077	5,269
前払費用	174,067	177,782
その他	357,928	342,265
流動資産合計	7,669,146	7,041,474
固定資産		
有形固定資産		
建物	259,203	168,640
減価償却累計額	△173,499	△9,072
建物(純額)	85,704	159,568
工具、器具及び備品	82,817	70,702
減価償却累計額	△67,283	△32,298
工具、器具及び備品(純額)	15,534	38,404
リース資産	61,853	1,732
減価償却累計額	△48,190	△1,732
リース資産(純額)	13,663	—
有形固定資産合計	114,901	197,972
無形固定資産		
ソフトウェア	407,586	108,907
ソフトウェア仮勘定	471,118	1,674,651
無形固定資産合計	878,704	1,783,559
投資その他の資産		
投資有価証券	7	96,297
繰延税金資産	434,953	282,999
敷金	318,138	199,404
その他	194,571	168,435
投資その他の資産合計	947,671	747,137
固定資産合計	1,941,277	2,728,668
資産合計	9,610,423	9,770,143

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	363,542	387,628
短期借入金	100,000	209,000
1年内返済予定の長期借入金	640,000	708,000
リース債務	14,773	912
未払金	660,610	608,444
未払法人税等	398,455	46,654
賞与引当金	174,055	58,560
資産除去債務	150,414	—
その他	680,033	573,323
流動負債合計	3,181,884	2,592,524
固定負債		
長期借入金	2,430,000	2,310,000
リース債務	6,387	—
資産除去債務	34,060	100,000
その他	102,774	147,916
固定負債合計	2,573,222	2,557,916
負債合計	5,755,106	5,150,440
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,761,208	1,792,991
資本剰余金	2,017,979	2,050,152
利益剰余金	146,380	999,637
自己株式	△131,058	△274,029
株主資本合計	3,794,509	4,568,752
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△92	7
その他の包括利益累計額合計	△92	7
新株予約権	58,651	49,067
非支配株主持分	2,247	1,874
純資産合計	3,855,316	4,619,702
負債純資産合計	9,610,423	9,770,143

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
売上高	9,156,085	8,078,020
売上原価	6,079,693	5,057,371
売上総利益	3,076,391	3,020,648
販売費及び一般管理費	1,392,463	1,600,665
営業利益	1,683,927	1,419,983
営業外収益		
受取利息	14	26
受取配当金	8,072	-
その他	2,258	276
営業外収益合計	10,344	302
営業外費用		
支払利息	22,918	34,096
社債利息	259	-
為替差損	14,061	4,085
その他	3,321	1,271
営業外費用合計	40,560	39,454
経常利益	1,653,711	1,380,831
特別利益		
新株予約権戻入益	-	4,195
特別利益合計	-	4,195
特別損失		
減損損失	-	75,399
特別損失合計	-	75,399
税金等調整前四半期純利益	1,653,711	1,309,627
法人税、住民税及び事業税	323,717	303,214
法人税等調整額	29,788	151,909
法人税等合計	353,505	455,124
四半期純利益	1,300,205	854,503
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,337	1,246
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,298,868	853,257

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	1,300,205	854,503
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	16	100
その他の包括利益合計	16	100
四半期包括利益	1,300,222	854,603
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,298,885	853,357
非支配株主に係る四半期包括利益	1,337	1,246

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

2021年10月28日開催の取締役会に基づき、「株式給付信託(J-ESOP)」制度の追加信託の抛出により、当第3四半期連結累計期間において、自己株式227,700株の取得を行いました。

この結果、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が149,948千円増加し、自己株式が274,029千円となっております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下、「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。これにより、ユーザーからの課金収入について、ゲーム内通貨の消費時に売上を計上しておりましたが、提供するアイテムの性質に応じた売上を計上する方法に変更しております。なお、当社グループがユーザーに対し提供するアイテムはおおむね消費性アイテム(ユーザーの一定の行為により消費され、継続的な便益をユーザーにもたらさない。)であり、アイテムの購入から消費までの期間が極めて短いことから、アイテムの販売時に売上を計上しています。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金及び当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響はありません。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法による組替えを行っておりません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

- I 前第3四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年12月31日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結 損益計算書 計上額(注)
	ゲーム事業	メディア事業	計		
売上高					
(1)外部顧客への売上高	9,085,164	70,920	9,156,085	-	9,156,085
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	-	496	496	△496	-
計	9,085,164	71,417	9,156,582	△496	9,156,085
セグメント利益又は損失(△)	1,958,646	△274,718	1,683,927	-	1,683,927

- (注) 1. 売上高の調整額は、内部取引の調整額であります。
2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

- II 当第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年12月31日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結 損益計算書 計上額(注)
	ゲーム事業	メディア事業	計		
売上高					
(1)外部顧客への売上高	7,968,562	109,457	8,078,020	-	8,078,020
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	7,968,562	109,457	8,078,020	-	8,078,020
セグメント利益又は損失(△)	1,632,750	△212,766	1,419,983	-	1,419,983

- (注) セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。